

2022年4月15日

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名.....陸軍少飛平和祈念の会
 代表者・役職名 氏名.....会長 指田和明

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

陸軍少年飛行兵・平和祈念プロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京陸軍少年飛行兵学校の生徒と職員による「少飛平和祈念館設立委員会」は、海軍予科練のような資料館の創設を求めてきました。この活動を市民を交えて平成28年9月に引き継ぎ、元少年飛行兵(少飛)をビデオ収録してその声を後世に残すとともに将来の少飛平和祈念館の設立を目指します。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

陸軍の「少飛」は、海軍の「予科練」と共に、若くして終戦時の特攻を担っていました。少飛の養成校の拠点が東京にあったことを再認識し、元少飛の方々の苦難や功績を、ビデオに収録し、将来の世代に伝えていきます。また茨城県霞ヶ浦の予科練平和記念館や南九州の知覧特攻平和会館等と並ぶ少飛平和祈念館が立川周辺に必要と考えています。多摩地域は立川飛行場を中心に陸軍航空軍の拠点でした。陸軍の中核的な航空軍施設や民間軍需工場を再確認するとともに、元少飛の方々の思いを受け止め、戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐことが大切と考えプロジェクトを進めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

(1)高齢化した元少飛の方々のビデオ証言の収録を重点としています。最も若い元少飛の方でも90歳を超えておりビデオ収録の限界に近づいています。(2)慰霊の機会などを通じて、元少飛の方々の情報を収集し、協力を求めていきます。(3)多摩地域の戦争遺跡等の住民団体と連携し、行政等への要望を進めます。(4)元少飛や専門家の講演会を持ち、会の周知と会員増を図ります。(5)九州の知覧、大刀洗、萬世、鹿屋等の平和施設との連携を図っていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

助成金を受けて作成したパンフレットやHPを利用して、いろいろな機会に会の周知を図ってきました。この結果、会員は当初の15名程度から80名を超え増加しました。元少飛の証言30名の目標をほぼ達成し、「元少年飛行兵ビデオ証言集」を第一集から第三集を刊行しました。令和4年度は可能な限りビデオ収録を続け、第四集、第五集の刊行を進めます。また近隣の平和関連の住民団体との連携を図ります。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

元少飛の生存者が限られてきて、ビデオ収録も限界に近づきつつありますが、本年度も引き続き目標30名を超える上積みを図ります。東京周辺は残り少なくなってきた状況から、地方在住の元少飛も対象に進めていく必要があります。本会の活動趣旨の理解を求めてPR活動を並行して行い、会員の増加を図って行きます。

7. 参考資料:「元少年飛行兵ビデオ証言第一集」「第二集」「第三集」

元少年飛行兵のビデオ収録と証言集の刊行に関する新聞記事。<http://sho-hi.sakura.ne.jp/>